

全国统一要求（抜粋）

1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
3. 過積載復活させるな



発行所  
全日本建設交運一般労働組合  
東京都新宿区百人町4-7-2  
電話 03(3360)8021  
毎月25日発行  
1部 50円

# 日建連交通事故防止講習会 全国ダンプ部会代表が講演



日建連・交通事故防止講習会でDVD映像を交えて講演（5月19日東京都内）



講演中の埼玉ダンプ北部支部・野呂委員長（右）と平田書記長（左）

## 交通安全 交通事故防止対策には 適正単価の確保が必要

全ダンプ

5月19日（火）、日本建設業団体連合会（日建連）が主催する「建設工事交通事故防止講習会」（出席者二〇七名）で、全国ダンプ部会を代表して埼玉ダンプ北部支部の野呂武留委員長と平田秋一書記長が講師として講演をおこないました。実際に工事現場で稼働しているダンプのDVD映像を上映し、

感を示し、「ぜひダンプ運転手の方から年2回開いている交通事故防止講習会で講演をして欲しい」と講師派遣を依頼され、講演を引き受けることになりました。

当日は約40分間の講演で、前半は野呂委員長がDVD映像と共に、「過積載、不正改造車両、速度超過」のダンプの実態を紹介し、自らの現場体験や北部支部の取り組みを伝えました。後半は平田書記長から全国ダンプ部会が取り組んできた「ダンプ車両の左折死角防止対策、道交法改正の運動、重量リミッター装着の提言活動」などの交通安全運動を紹介し、「交通事故の防止には、ダンプ労働者に適正単価を支払うことが不可欠」であること訴えました。会場には元請のゼネコン各社から安全担当者や現場代理人が参加しており、全員が真剣に話を聞いていました。後日、日建連から講演に対する感謝の文書が送られてきました。

5月19日（火）、午後1時から東京都内で開催された「日建連・建設工事交通事故防止講習会」（二〇七名出席）に全国ダンプ部会を代表して、埼玉ダンプ北部支部の野呂武留委員長と平田秋一書記長が「ダンプの実態と交通事故防止について」と題して講演をおこないました。日建連とは、

日本建設業団体連合会（会長：鹿島建設（株）中村満義社長）の略称ですが、スパーや準大手ゼネコンなどが会員企業になっている言わば国内の建設業団体のトップです。今回の講演をおこなうきっかけになったのは、日建連が制作して出版している「交通事故防止対策指針」（総数一四

三ページ）を昨年夏に入手したことでした。指針の内容の大半は建設工事の現場において運行が一番多いダンプに対する事故の防止対策でした。全国ダンプ部会は、昨年秋に日建連の担当部署へ懇談を申し入れ、ダンプの実態や部会の交通安全運動の歴史を伝えたところ、担当者の方が共

その頃、埼玉ダンプ北部支部の仲間たちが、現場の実態を映像に記録する作業に取り掛かっており、全国ダンプ部会として北部支部に講師をお願いする事になりました。講演日までに2回の打ち合わせをおこない、映像を何回も修正し、新たに北部支部が取り組んでいる「朝礼、アルコールチェック、不正軽油撲滅活動、道路清掃」やダンプ車両の構造（死角）や自重計の使用方法なども入れました。

DVD映像を上映し、ダンプの実態を紹介する。当日は約40分間の講演で、前半は野呂委員長がDVD映像と共に、「過積載、不正改造車両、速度超過」のダンプの実態を紹介し、自らの現場体験や北部支部の取り組みを伝えました。後半は平田書記長から全国ダンプ部会が取り組んできた「ダンプ車両の左折死角防止対策、道交法改正の運動、重量リミッター装着の提言活動」などの交通安全運動を紹介し、「交通事故の防止には、ダンプ労働者に適正単価を支払うことが不可欠」であること訴えました。会場には元請のゼネコン各社から安全担当者や現場代理人が参加しており、全員が真剣に話を聞いていました。後日、日建連から講演に対する感謝の文書が送られてきました。

全国ダンプ部会では、これまでダンプ労働者の為に過積載防止対策や単価改善の運動を展開し、時には発注当局や日建連の会員企業を相手に、交渉や宣伝行動などを展開してきました。この度の取り組みは長年の積み上げてきた運動が、また一つ実を結んだものとして受け止め、全国ダンプ部会に結集する各支部が、ダンプの単価と労働条件の改善に向けてさらなる奮闘が求められます。



2015春闘に向けて議論する広島ダンプ支部・広伸分会の仲間たち

# 2015春闘を推進 要求にもとづく団結が力

## 単価改善を求めて交渉 今後粘り強く闘おう

広島ダンプ支部に所属している呉市の「広伸建設」で専属として働く「広伸建設分会」の仲間たちは、昨年について単価の改善を求めて3月31日と5月27日に仕事を終えた後、提出した二〇一五年春闘要求書にもとづいて団体交渉をしました。

「常用単価4万円以上」を求めて分会長をはじめ代表者4名で社長や相談役と話し合いをおこないましたが、話し合いに進展は見られず、平行線となりました。昨年の交渉では回答内容

(到達点)は「①単価引き上げは努力するが、今すぐ4万円は無理。常用単価は4月の分から引き上げる。②材料運搬の単価の記載については前向きに検討する。③団体交渉の時間は仕事の終了後に行っても良い」などを確認しました。その後分会では、6月2日に全員集会を開催しました。会社との話し合いの内容について参加者から詳しく報告し、全員で交渉内容を共有しました。現状の認識を一致させたうえで、今後の方向性を出そうということで意見を一致させるためにも、全員が意見を



過積載根絶と使用促進闘争で単価改善の闘いを決意 (5月24日沖縄県内)

**過積載・低単価の根絶へ  
要求闘争で奮闘しよう**  
沖繩ダンプは5月24日(日)、第17回定期大会を西原町で開き、各分会から51名の仲間が参加しました。

東江勇議長の主催者あいさつ後、全国ダンプ部会の森谷稔部会長から全国の運動を紹介し、激励のあいさつを受けました。

その後、東江勇議長が活動報告と運動方針案の提案をおこないました。活動報告では、引き続き過積載根絶と単価改善のたたかいや、那覇空港第2滑走路工事での就労確保の取り組み、山城生コンクリート工業分会のたたかいでは、沖繩生コンクリート協同組合は平成26年10月分の契約から販売価格を値上げしました。

それに伴って今年4月から公共工事の生コンの販売価格が改定され、21社の生コン会社に対して、ダンプの運搬単価を引き上げるよう直接要請したことを報告しました。

最後に、運動方針案を採択して終了しました。役員は全員再任しました。

**役員体制**  
議長 長 東江 勇  
副議長 長 又吉 和一  
事務局長 當間 鉄平  
他3名

**一三〇名の支部建設へ  
単価闘争で奮闘しよう**  
茨城ダンプ

茨城ダンプ支部は、5年ぶりとなる第12回定期大会を5月17日(日)に茨城ダンプ支部の事務所で開催し、10名が出席しました。大会では、公共工事労働単価引き上げに伴う単価改善の闘いと使用促進闘争への取り組みを強化し、建設職人を迎え入れる為、特

別労災保険への加入を強めることを確認しました。

支部財政確立の課題が残っていますが、当面一三〇名の支部建設を目指して奮闘します。最後に新執行部を選出し、団結がんばろうで大会を終えました。

**役員体制**  
執行委員長 打越 順治  
副委員長 大平 東勝  
書記 長 朝川 剛

**法律違反を認めさせ  
和解と謝罪勝ち取る**  
秋田ダンプ

昨年組合を結成したことを理由にして、不当労働行為を受けていた秋田ダンプ支部西山運輸分会の山中重晴さんは、5月26日、秋田県労働委員会のもとで和解しました。会社と組合、山中さんは和解協定書と組合、代表取締役の嶋田允氏はその場で秋田ダンプ支部と山中さんあてに謝罪文を



5年ぶりに定期大会を開催した茨城ダンプ支部の仲間たち (5月17日茨城ダンプ支部事務所)

会社は、和解協定書では労働組合法に違反したことを認め、謝罪文では具体的な労働組合法違反の事実をあげて謝罪し、このような行為を二度と繰り返さないことを表明しました。6月2日には、山中さんが原告になって秋田地方裁判所に対して、会社の不法行為(不当労働行為)によって受けた精神的損害の賠償支払を求めました。社長は、地労委で和解していたながら、間違ったことはしていないと相変わらず開き直っています。裁判でもきつちりと決着をつけなければなりません。今後組合と山中さんは、秋田地裁で争っている時間外手当請求事件や損害賠償の支払の解決に向けて取り組み、会社が表明している働きやすい職場づくりの実現するために活動していきます。